

—270万部突破—
「DeepLove」のYoshi 総監修により完全映画化!
新たな衝撃と感動の物語が今、始まる



友達はい必要ですか?

Dear Friends

ディア フレンズ

北川 景子 本仮屋ユイカ

黄川田将也 小市慢太郎 / 大谷直子 / 宮崎美子 大杉 漣

原作/Yoshi 「Dear Friends」 (講談社文庫より12月中旬発売)

監督/両沢和幸

www.dear-friends.jp

2月3日[土]全国東映系ロードショー

©2007「Dear Friends」制作委員会
配給/東映

Yoshiが贈る、もうひとつの「DeepLove」待望の映画化!!

あなたにとって、友達ってなんですか？

必要なもの、邪魔なもの

助け合うもの、足を引っ張り合うもの

相談する相手、ケンカする相手

かけがいのないもの、

必要なときだけ利用するもの

「友達なんか必要ない。必要な時にだけ利用するもの」

そう言い放つ、女子高生・リナ（北川景子）。

そんなリナを突然の病魔が襲う——。すべてに絶望し、自ら命を絶とうとしたリナの前に現れたのは、親でもとりまき達でもなく、彼女の記憶にさえない、小学校時代の同級生・マキ（本仮屋ユイカ）だった。

「私もリナちゃんと同じ痛みを味わうわ。だって、友達だから……。」

そう叫んだマキは自らの胸にナイフを突き立てた……。

270万部を超える大ベストセラーシリーズで、一躍女子中高生のカリスマ的な存在となったベストセラー作家Yoshiの同名小説を完全映画化。「友達は必要ですか？」というストレートなメッセージと読者の体験談を盛り込んだ、リアリティーのある物語は、現代に生きる女子中高生のみならず、女子大生やOLにも、慰めと生きる勇気を与え、口コミだけで原作本は50万部、コミックス30万部を超えるロングセラーとなっています。

（原作本はYoshi初の文庫本として、12月中旬に講談社文庫より発売されます。）



原作にこめた思い

この作品を書いたきっかけは、読者のみなさんのメールでした。

自分の運営する携帯サイトには、さまざまな体験談や相談メールが寄せられます。

中でも特に多かったのが、友達に関する悩みでした。

「友情」は永遠のテーマです。正直、ありきたりの内容にはしたくありませんでした。そこで、自分が選んだのは、悩みや痛みを隠さず書くことでした。

嫉妬、いじめ、裏切り……性の問題、自殺。そして、死……

友達との関係は決してきれいなものばかりではありません。それを包み隠さず描くことで、本当の友情とは何か？——そのヒントが見えてくると思ったのです。

原作には、読者の体験談も盛り込みました。それによって、リアリティーのある作品にすることで、より身近な問題として感じて欲しかったからです。

この作品が、みんなにとって、考えるきっかけになればいい——小説を書く時、いつも意識していることです。そんな自分の願いを、最もストレートに表せた作品です。年齢や性別を超えて、友達について考えてもらいたいと思っています。

by Yoshi

人気急上昇中の演技派ニューヒロインが夢の競演!!

誰もがあこがれるルックスを持ち、自己中心のだが、カリスマ性を持つ主人公・女子高生リナを演じるのは、雑誌「SEVENTEEN」のカリスマモデルとして活躍後、映画『間宮兄弟』や『ワイルドスピードX3 TOKYO DRIFT』に出演し、今もっとも注目を浴びている演技派若手女優・北川景子。リナを心の底から慕い、自暴自棄になっていくリナをどこまでも見守るマキには、映画『スウィングガールズ』、NHKのドラマ「ファイト」の主演などで、今後の活躍が期待されている実力派若手女優・本仮屋ユイカ。2人の若きヒロインが、単なる友情物語ではない、

心と心が衝突する痛々しいまでの女の子同士の友情をリアルに演じます。また大杉漣、宮崎美子、大谷直子など日本映画を代表する本格派キャストたちが、フレッシュな2人のヒロインの体当たり演技を受け止めています。

死んでしまいたいと思うような極限状況で生まれた、“女の子同士の本当の友情”。そして、真の友達が命を賭けて教えてくれた“生きる勇気”。ケータイのメモリの多さやプリ帳の数では、はかることができない「本当の友達」という問いかけをテーマに、衝撃と感動のストーリーが今、幕を上げる——。



2月3日(土) 全国東映系ロードショー



Yoshi official
ケータイサイト